教材・支援機器活用実践事例

【成長を自覚し、自己肯定感を高める掲示物の工夫】

子どもに	学年·学級	中学校 特別支援学級(自閉症・情緒障がい)
ついて	対象の障がい	高機能自閉症
	授業形態	個別指導
学習上又は 生活上の 困難さ	子どもの 特性や教育的 ニーズ	 こだわりが強く一つのことに集中してしまうと気持ちの切り替えが難しい。 問題の答えを間違えた時、それが許容できず走り回ったり机を叩いたりする。 ルールは理解しているが、それを自分の行動にあてはめたり、実践したりすることに抵抗を感じている。
教材・支援機器活用	使用した支援機器・教材の名称	朝島からうまでに教室によってきまして。 を受けてきまして。 を対するシスカタは できまして。 をはないたがなります。 できまして。 がは、まかしてきない。 できまして。 がは、まかしてきない。 できまして。 がは、まかしてきない。 できまして。 がは、まかしてきない。 できましていまして。 できましていましていましています。 できょうにはましていましていましていましていましていましていましていましていましています。 では、まかしていましていましていましていましています。 では、まかしていましていましています。 では、まかしていましていましていましています。 では、まかしていましています。 では、まかしていましていましています。 では、まかしていましていましています。 では、まかしていましています。 では、まかしていましています。 では、まかしていましていましています。 では、まかしていましていましていましていましていましていましていましていましていましていま
	活用のねらい	・ 生徒の成長の振り返りとして、また称賛によって自己肯 定感を高めさせることを意図している。
授業における支援・ 教材の配慮事項		・ 学級活動や自立活動の時間に自分の行動を振り返らせ、 短期的な目標を掲げる。その変容が見られた際に頑張りの 花びらに記入し、称賛する。
子どもの変容や評価		自分の状況や考えを落ち着いて話すことができるようになってきた。自分を卑下するような発言が少なくなってきた。